

令和7年度 第3回平塚市博物館協議会 次第

令和8年3月24日（火）14時～
平塚市博物館特別研究室

1 開会

2 議事

（1）報告事項について

- ・令和7年度秋期特別展について
- ・第25回博物館文化祭について

（2）令和8年度予定について

- ・令和8年度当初予算について
- ・令和8年度事業計画について

（3）協議事項

- ・博物館ワーキンググループ活動のあり方について

（4）その他

- ・劣化度等調査業務委託について
- ・開館50周年記念事業について
- ・事務連絡等

3 閉会

※会議終了後、「ひらはく 50年 市民と歩む地域博物館」の展示をご案内いたします。

以 上

令和7（2025）年度秋期特別展

「丹沢でみつけたスゴい石 -丹沢山地の化石・岩石・鉱物-」開催報告

会 期 2025(令和7)年10月25日(土)～2026(令和8)年1月12日(月・祝)
 (開催期間:64日)
 休館日:月曜日・年末年始(12月29日～1月3日)

主 旨 神奈川県から山梨県にまたがる広大な丹沢山地から見つかる化石、岩石、鉱物は、山々の特殊な成り立ちを物語るものである。本展示では、丹沢の研究者やコレクターの所蔵品も交えた、丹沢産の珠玉の石を紹介した。

展示構成 1章:丹沢山地の成り立ち／2章:丹沢山地の化石／3章:丹沢山地の鉱物／
 4章:丹沢の石を探る

入 館 者	入館者数			開館 日数	こどもの 割合	平均入館 者数/1日
	大人	子ども	合計			
10月	701	344	1,045	6	32.9%	174
11月	3,593	1,683	5,276	26	31.9%	203
12月	2,637	925	3,562	24	26.0%	148
1月	941	235	1,176	8	20.0%	147
期間計	7,872	3,187	11,059	64	28.8%	173

(参 考)		大人	子ども	合計	開館 日数	こどもの 割合	平均入館 者数/1日
	R7 夏	7,001	3,815	10,816	44	35.3%	246
	R6 春	6,512	2,748	9,260	50	29.7%	185
	R6 秋	5,972	2,398	8,370	56	28.6%	149
	R6 夏	6,017	3,543	9,560	40	37.1%	239
	R5 春	7,294	3,148	10,442	53	30.1%	197
	R5 秋	5,751	2,064	7,815	64	26.4%	122

関連行事 自由参加行事
 ・特別展示解説: ①11月2日(日) 参加:大人20人、子ども2人
 ②11月22日(土) 参加:大人12人、子ども0人
 ③12月20日(土) 参加:大人20人、子ども0人
 ・体験学習「丹沢からきたガーネットを探そう」:
 11月16日(日) 参加:大人55人、子ども57人
 ・記念講演会「丹沢のスゴい鉱物と化石」:
 11月30日(日) 参加:大人109人、子ども3人
 申し込み制行事
 ・体験学習「微化石標本をつくろう」:
 12月27日(土) 参加:大人16人、子ども16人
 ・体験学習「丹沢産の鉱物標本をつくろう」
 1月11日(日) 参加:大人13人、子ども14人

印刷物 図録

「丹沢でみつけたスゴい石 -丹沢山地の化石・岩石・鉱物-」

A4判 64 頁 カラー 1,200 部 頒布価格 ¥500

開催期間内頒布部数:571 部

(参考)R6 夏:48 部、R6 秋:235 部、6 春:306 部、R7 夏:90 部

ポスター B3 判 カラー 300 部

リーフレット A4 判 カラー 3,000 部

担当者評価

過去の特別展と比較すると、入館者は秋期には多く、図録の販売部数や行事参加者数も好調であった。大きな要因としては、世の中の鉱物ブームにタイミングが合致したこと、研究者やコレクターとの協力により良質な標本を数多く展示出来たこと、などが考えられる。また、丹沢の地質や化石・鉱物に関してはまだ明らかでないことが多く残るという事実も提示できたと考えている。今後も本展示を下地に、研究者やコレクターとの協力のもとで調査研究を進めつつ、その成果を常設展や行事にも活かしたい。

アンケート結果集計

回収枚数 128 枚

回答者の住所 平塚市内 47 人、平塚市外神奈川県 39 人、神奈川県外 2 人、関東以外 1 人、海外 0 人 (n=89)

回答者性別 男 39 人、女 50 人 (n=89)

回答者年齢 (n=101)	~19 歳	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
	28 人	7 人	5 人	8 人	11 人	12 人	13 人

情報の入手先 (複数回答可) (n=100) 広報ひらつか 15 人、博物館のホームページ 18 人、あなたと博物館 5 人、SNS 6 人、新聞等 4 人、ポスター 19 人、口コミ 5 人、その他 28 人

おもしろさ興味ぶかさ (n=90)	とてもおもしろい	ややおもしろい	ふつう	ややつまらない	つまらない
	66	14	8	2	0
	73.3%	15.6%	8.9%	2.2%	0.0%

難しさ (n=90)	とてもよくわかる	まあわかる	ふつう	ややむずかしい	とてもむずかしい
	27	35	11	10	7
	30.0%	38.9%	12.2%	11.1%	7.8%

総合評価 (n=90)	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
	60	22	5	2	1
	66.7%	24.4%	5.6%	2.2%	1.1%

ご意見・ご感想(原文ママ)

- ・平塚大磯の海岸でシーリングをするのが好きです。いろいろな種類の石があるので知識は無いけどながめるだけでもたのしいのですがこの特別展でいろいろな種類がある理由の一端がわかった様な気がします。おかげでまた海岸で石を見る楽しみ方が増えました。
- ・平塚の歴史を科学面文化面で解説しており興味深く拝見しました。これで無料とは驚きました。
- ・山の中で実物を見たい
- ・星のあとに本展をみました。空と大地の間で、心と体が楽しく揺れました。知らないことばかりで勉強したいです。(でも、このような実物のおもしろさ、迫力にはかないません)ありがとうございました。今後も期待大です。(友人にも話したいと思います)
- ・丹沢の石だけでこんなに充実した展示ができるのすごいです。面白かった。地図がもうすこし大きいとありがたいです。近視なもので。
- ・時々川で気に入った石をみつけると手に入れているのできれいな石の科学的知識をえられておもしろかった。
- ・目のほようと丹沢に多くの石がある事をしてたのしかた。
- ・すてきでしたとてもよかった
- ・石が好きなのでこれでよかったです。
- ・丹沢の成り立ちと岩石の関係がよくわかった 岩石もよく見えた
- ・ちょうどアニメ「瑠璃の宝石」をみたところだったので、丹沢の石のことを知れてとても楽しかったです。
- ・丹沢の海だとは知らなかった これから散策するとき見方が変わる ためになりました
- ・適切な説明でたくさんの標本があり、こんなにいろいろ丹沢にはあるのだと思いました。さわれるのも楽しいです。門田先生の業績についても廊下に展示があり、少しですが知ることができました。ありがとうございました。
- ・いろいろおもしろい鉱物がみれて楽しかったです。もう少しかんたんに説明してもらおうとうれしかったです。けいくじゃく石は金がさびたものとはしりませんでした。またこんどにたものをやるときもききたいとおもいます。
- ・かながわはこうせきがとれないとおもっていたけれどあんなにとれるんだ！と思いきいあとおもいました。またいきたいです。
- ・たくさんの石がみれたのしかかったです。ただ漢字がむすかしかったです。さ金、サファイヤ、じてつこうなど私がしているものがあつたのでとても楽しかったです
- ・県内県外いろいろありました。日本の国産鉱物等の展示も期待します
- ・とても見やすくわかりやすかったです 地元の地学的な歴史について理解が深まりました 化石の展示は現生のものと比べてあつたのでよくわかりました 近所の川へ行ったら石の観察をしてみたいと思います
- ・丹沢の「路傍の石」も見る人が見れば理解で来るのですね！
- ・丹沢の歴史について知れてよかったです！！水晶がとってもキレイでした！！
- ・いしがきれいだった
- ・ボランティアの方に詳しく説明していただき、すごく分かりやすかったです！自分たちだけでみて回ってたらよく分からないところも多かつたと思うので、とてもありがたかつたです。またこっちの方に来た際には立ち寄らせていただきますね
- ・山岳会で知り合つた門田氏が企画さんかされたこの特別展は非常に興味深く楽しめました。自身が日頃歩き廻つた丹沢山塊の足元に、このような石や化石があるとは！！今後山を歩くときもこの展示を思い出して楽しめそうです。
- ・おもしろい
- ・いろいろなことをしれてよかつた
- ・いしさがしがたのしかつた

- ・いしきらきら
- ・青サンゴの石の断面の説明がありましたけどちょっとわかりにくかったです
- ・ちょっとつるつるしたいし。どうみても、したのほうがかくいの？
- ・すいしよう
- ・実物 角閃片岩の輝き！（石英片岩をみたかった）
- ・秦野市に住んで 55 年とても良い石たちにめぐり合って本当に丹沢のすばらしさを石でかんじましたありがとうございます。
- ・いろいろな石のしゅるいがあって分かりやすかった
- ・この丹沢を無りょうで見れるなんてすごい！！
- ・いろんな石がありおもしろかった。
- ・たのしかった、水晶がきれいですごかった
- ・いしがすべすべしてた。たのしい
- ・たのしかった
- ・化石から鉱物まで色々なものが見られて面白かった。
- ・石に触れられて良い経験になりました。
- ・かつて学生のときに地学のじゅぎょうで鉱物や岩石のおもしろさに興味をもっていました、大人になってからは触れることなくすごしていました。今回の展示は思いがけずふらっと立ち寄り拝見したのですが、海や火山かつてのダイナミックな変化が時を経てもたらされたものを詳しく解説で知ることができ、山北や秦野などよく知る土地にこんなものが！というおどろきもあり、たのしい時間をいただきました。変成岩が特に興味深かったです。トータル岩が神奈川県の花、おぼえました！
- ・石に直にさわって体感出来るのがおもしろかったです 化石や色々な石が眠る丹沢 改めてすごい場所なんだなと思いました
- ・最近アニメで観た鉱物採集の様子をよりリアルに感じることができました。どうやって微細な結晶を見つけることができるのでしょうか！身近にも鉱物があるのだと思うとうれしくなります。
- ・小学生でもわかりやすかったです！
- ・とても貴重な化石や岩石鉱物を見る事ができました。化石を山の中から見つけ出し研究された方々に感謝です。
- ・きれいな石やなめらかな石がキラキラした石があつてとてもおもしろかった。
- ・1 石のふるさと海でした 2 ビデオが(19分)とても長い
- ・DVD 再生の音量がやや大きく 説明分を読む際 少し気になりました。
- ・興味深かったです！一つの山でもたくさんの石の種類があるのがおもしろかった サンゴを横に展示して下さったのもとの形がわかりやすくてよかったです！
- ・地質や鉱物の基礎についてのレクチャーが分かり易く掲示されてあるのもっと良かった。それにしても総じて素晴らしかったと思います。感謝。
- ・貴重な標本が多かった
- ・丹沢に本当に「すごい」石があるということがちゃんと伝わったところがよかった ユーシンプルーは何故ブルーなのかをずっと不思議に思っていたので 丹沢にも鉱山があったのは知らなかったので興味深かった
- ・伊豆が別プレートは知ってはいたが丹沢もプレートに乗ってきたとは
- ・とても良かった。なんと云うか、かつて大陸の一部だった所の県の博物館へ行くと地元で多彩な石(や、化石)がとれて「スゴイ！」とよく感じるものだが、そう云うのを神奈川で感じられた。外国でとれたとてもキレイな岩石をみせられも得られないものがあります。
- ・ふだんとは違った視点で石を見ることができた
- ・石ばかりで少し単調だった
- ・たん沢で化石が見られることは知らなかったのも、良い学びになった
- ・なんともいえない いしがいっぱいあつたのしかったです

- ・学校にはってあるポスターを見て来ました。無料なのでまたこよюと思ひます
- ・たいへん興味深く拝見しました。丹沢の更なる魅力を見つかることができました。
- ・丹沢山地の生い立ちが良く理解出来ました。海底火山の誕生は 1700 万前 or1900 万年前？両者の記載があり。鉱物・岩石・化石については弓成り網羅的にまた分類された形で展示されていたと感じましたが、量が多過ぎて理解には至りませんでした。他地域と比べて丹沢に於ける極く特徴的な物を限定した解説も欲しかったです。何れにしても勉強になりました。有難う御座いました。
- ・石のりようがあれほどおおいとはびっくりしました
- ・ほかにもいろいろだしてね
- ・展示品を少し変えたりした方が(月替わり)にした方が良い
- ・きらきら光っている石が見れてよかった。はくぶつかんにきてきようみをもてた。
- ・(特別展のマスコットキャラの絵)←この子ににてる石があつてすごかった。しかも色あざやかな石やけっしょうがきれいでした。
- ・今まで勉強したかった、鉱物のことや変成岩のことなどわかりやすくまとめられていて。大変勉強になりました。また、門田先生のノートやスケッチといった遺品も拝見することができ、よかったです。ありがとうございます。また、こういった展示を楽しみにしています。今回、イベントになかなか参加できなかったため、次回がありましたらぜひ参加したく思ひます。
- ・わかりやすくて
- ・道志川で大きな水晶がとれるとはおどろきました！
- ・おもしろかったです。
- ・クリノゾイサイトの赤緑のバイカラーのルースをもつていて、今まで緑しか見たことがなかったから、どんな鉱物だろうと思つていたのですが、相川町の斜灰簾石の色かまさにそれのおりで、こんな近くでキレイな実物が見れるとは思つておらず、ぐうぜんのめぐりあわせにとてもうれしかったです。さわれるのもたのしかったのですが、どこまでがさわつていいのかすこしわかりづらかったです。
- ・北丹沢のペグマタイト鉱物 展示説明 カリ長石の理想科学式が間違つています。
- ・企画はとても面白いですが、専門用語が多くて少し難しかったので、もう少し説明文があつてもよかったと思ふ。
- ・遠いので来るのをまよひましたが、来てよかったです。説明もわかりやすく大変おもしろかったです。
- ・「丹沢で見つけたスゴイ石」(特別展)のポスターを愛川町図書館で見ました。以前門田先生が講師をつとめた「昔、丹沢は南の島の火山島だった」の展示会を宮カ瀬の郷土資料館で見ましたが、それ以来の規模で、実際に様々な岩石を間近に見て、平で触れられたことは、とてもよかったです。
- ・いしにさわれてうれしかった
- ・ビデオの説明や展示もみやすく興味深く見れました。
- ・いろいろな石がみれてよかった。
- ・丹沢のなりたちを知れて興味深かったです。
- ・いろいろな石がみれてよかった
- ・たくさんの標本を見ることができてよかったです
- ・すばらしかったです。
- ・石の表面を見ることが出来、かつ名前もあるのでとても興味深く見せて頂いた。石それぞれにいていねい名称が付けられているのも見ていて、生活の中にも面白い石があるのではと感心する
- ・アイオライトが身近なところでみつかるというのが意外だった。サンゴ化石がたくさんあり、本当に昔は丹沢が海の中にあつたことが分かつた。
- ・とてもためになったが、酒匂川や相模川など河原でみられる丹沢の石や登山道でみられる石も紹介してほしかった(身近に見て感じら□□□)
- ・静かな雰囲気で見やすかつたです。説明文は解りやすかつたです。
- ・参考になりました。
- ・酒匂川の河口で見た石の色にひかれて訪れました。小3の子供は、展示が、漢字ばかりで分からなかつた

- ったと言っていました。確かに難しかったかも… 日に一度とかの解説ツアーがあると良いな—
- ・ちょうど卒論で丹沢・酒匂川を研究しているので、ためになりました！！ ありがとうございます
- ・どんないしがあるのかが知れました。
- ・地元の地質研究に目を向けた点 評価に値する
- ・うーんです。期待してきましたが、入館から案内も分かりにくく階段を上下してようやく一階奥の展示にたどりつきました。ビデオも編集が雑で分かりにくく、展示も項目立てが不明りょうでした。あと荷物も預けられず、エレベータもないのに館全体の内容をはあくする表示もはっきりしませんでした。丹沢に関心あったので残念です。
- ・石はなじみがないのでむずかしかった。
- ・たんざわの石についていろいろしれてよかったです。
- ・ジルコンがこんなにもキレイだと思わなかったです。見られて良かったです！ 展示物の石の色が地味だったので、ペグジルのカラフルさが目に染みます！
- ・おうむがいがおもしろかったもっとみたい(オウムガイのイラスト)
- ・門田先生とは何回も化石ひろいに同行させて頂きました。大変おいしい人をなくしました。
- ・レベルが高い
- ・神奈川県や山梨県の鉱物が多種に渡り非常に興味が沸き、現地での現物を観察出来れば、全体の様子が判れば、とても良いと思います。
- ・サンゴの分類表は(系統図は)、網、目レベルまでしかなかったですが、化石を含む転移標本は、ほぼイシサンゴ目だったので、せめて、イシサンゴ目の”科レベル”の系統図などの解説があったら良かったと思います。
- ・けいくじゃくいしがきれいでした。
- ・パネル北丹沢のペグマタイト鉱物 カリ長石(氷長石)化子式 Al_2O_3 /三方晶系)へんです
- ・緑簾石に魅力を感じました。
- ・岩石や化石に興味があるので楽しく見ることができました。新しい名前、初めて聞く名前などがあり、勉強になりました。ありがとうございます。
- ・いろいろなことが分かってとても楽しかったです。
- ・ホシズナをホシスナだと思ってました。
- ・ありがとうございました
- ・丹沢がもとは南にあった海底火山だったというのはすごい発見だと思う。門田真人氏の功績としてもっと広められるべきだと思う。個人的にはその海底火山だった範囲、元海底火山だったことによるほかの山塊との違いなども知りたかった。
- ・今まで知らなかった丹沢についての視点でみることができ非常に面白かったです。実際に岩石に触ることができたのも良かったです。
- ・動画の前に椅子があると良いと思った。17分は止まって立ってみるには少し長い(年寄りには)
- ・面白く神奈川の誕生を知ることができ、厚く御礼申し上げます。
- ・丹沢山地も伊豆半島と同じフィリピン海プレートだと知りました。

「第 25 回博物館文化祭 –ワーキンググループ活動報告–」開催報告

- 1) 会 期 令和8年2月6日(金)～2月27日(金) 会期 19 日間
- 2) 展示会場 平塚市博物館 特別展示室
- 3) 主 催 平塚市博物館
- 4) 主 旨 博物館で活動する会員制ワーキンググループ(以下WG)が、活動成果の発表を通じて相互の交流を深めるとともに、市民に広くその活動内容を紹介することを目的に開催。
- 5) 参加ワーキンググループ (14 団体、前回より 2 団体減)

WG	展示	報告会	実演	見学会	小展示
東国史跡踏査団					○
平塚の古代を学ぶ会				○	
古代生活実験室	○		○		
石仏を調べる会	○	○			
民俗探訪会	○	○			
祭りばやし研究会			○		
聞き書きの会		○			○
古文書講読会		○		○	
裏打ちの会				○	○
平塚の空襲と戦災を記録する会				○	○
地域史研究ゼミ		○			○
天体観察会	○	○	○		
生き物ズームプロジェクト	○				
展示解説ボランティアの会					○

- 6) 運営状況 昨年度に引き続き、今年度も実行委員会の出席を求めない参加形態である「見学会」と「小展示(旧称：ポスター展示)」も加えて実施した。
参加WGのうち「展示」、「報告会」、「実演」に参加するWGから選出された実行委員で実行委員会を組織し準備と運営を行った。会期については、開館日数で 19 日間とした。開催告知用ポスターは、各ワーキンググループにデザインを募り、4 グループ(石仏を調べる会、天体観察会、民俗探訪会、古代生活実験室が作成)からデザインが集まった。ポスターは市内の広報掲示板への掲示をはじめ、市内の小

中学校と公民館、市外の図書館・博物館へ送付し行事の周知に努めた。パンフレットは A5 縦判 20 頁とし、白黒印刷で 800 部印刷して博物館受付や特別展示室で配布するとともに、ポスターの発送時に同封して行事の周知に努めた。展示は、各WGの活動成果を実物資料や写真を交えて紹介した。展示参加WGは5団体（前回8団体）だった。展示会場には質問掲示板を設置し、観覧者が展示内容への質問や意見を質問用紙に記入してホワイトボードへ掲示、それをワーキンググループ会員または担当学芸員が回答して再掲示するというもので、質問と回答を全体で共有することを主な狙いとした。会期中に8件（前回12件）の質問が掲示され、回答はX（旧 Twitter）でも行った。活動報告会は、6グループ7題目（前回は3グループ、3題目）で行う予定であったが、当日は大雪警報が発令されたこともあり中止となった。報告内容は各WGの判断において館公式 YouTube で公開することとなった。実演は4件（前回件）で、天体観測会太陽分科会の「太陽黒点を見よう」は大雪警報発令のため中止、古代生活実験室の「土器焼きを見よう」は30名（前回20名）が参加、祭りばやし研究会の「古民家でお囃子を聴こう！」は13名（前回25名）が観賞、天体観測会プラネタリウム分科会の「会員によるプラネタリウム投影」は、2日間6回行い延べ97名（前回84名）が観覧した。

小展示(旧称:ポスター展示)は、今年度のWG活動内容をA2サイズ用紙に簡単にまとめ、展示した。参加WGは5団体だった。見学会は、実際の通常のWG活動のようすを来館者に開放することを目的にしている。平塚の古代を学ぶ会は2名、裏打ちの会は3名、古文書講読会は4名、平塚の空襲と戦災を記録する会は8名だった。

会期中の入館者は2,585人（前回3,534人）、一日平均では136人（前回168.2人）だった【表1】。

【表1】過去6年間の博物館文化祭入館者数

	大人	子ども	計	日数	こどもの割合	1日平均	参加団体数
R7年度（2026 2/6～2/27）	1,976人	609人	2,585人	19日	23.6%	136人	14
R6年度（2025 2/7～2/27）	2,612人	922人	3,534人	18日	26.1%	196.3人	16
R5年度（2024 2/3～2/25）	2,074人	655人	2,729人	20日	24.0%	136.5人	9
R4年度（2023 2/4～2/19）	1,804人	668人	2,472人	14日	27.0%	176.6人	8
R3年度（2022 2/5～2/20）	1,396人	321人	1,717人	14日	18.6%	122.6人	7
R2年度 開催中止	コロナ禍により開催中止						
R1年度（2020 2/8～2/24）	2,269人	410人	2,679人	15日	15.3%	178.6人	10

7) 展示ワーキンググループとタイトル

ワーキンググループ名	展示タイトル
古代生活実験室	「実験考古学—とにかくやってみた—」
生き物ズームプロジェクト	「平塚市総合公園の自然観察」
石仏を調べる会	「平塚の地蔵」
民俗探訪会	「平塚市内の魚屋さんの調査報告」
天体観察会	「会員が切りとった星空たち」

8) 活動報告会 ※中止

2月8日(土) 14時00～16時40分

会場：講堂

参加ワーキンググループ名	発表タイトル	発表者
石仏を調べる会	平塚の地蔵	中森勝之
民俗探訪会	平塚の漁業とその周辺	佐藤光世
聞き書きの会	聞き書き集第5集の刊行について	露木正巳・神谷智子 杉園佐智子・荒井幸江
地域史研究ゼミ	大山の天狗にさらわれた話-風説書の世界-	藤城憲児
古文書講読会	古文書講読の紹介	山口正俊
天体観察会	私の太陽観測	岡澤 智
	皆既月食中の月の明るさについて	塩田和生

9) 実演 当日整理券制 参加者 計140人 (前回は365人、前々回は116人)

ワーキンググループ名	タイトル	日時	会場	人数
天体観察会 太陽分科会	太陽黒点をみよう	2月8日(日) 10:00～11:30	屋上	中止
古代生活実験室	土器焼きを見よう	2月14日(土) 9:30～16:30	屋外展示場	30人
祭りばやし研究会	古民家でお囃子を聴こう!	2月14日(土) 15:30～16:00	相模の家	13人
天体観察会 プラネタリウム 分科会	会員によるプラネタリウム 投影	2月15日(日) 15:15～ 16:50 と21日(土) 15:15～16:25	プラネタリウム室	97人

10) 見学会

ワーキンググループ名	日時	会場	人数
古文書講読会	2月6日, 13日, 20日, 27日	講堂	4人

	いずれも金曜日、10:00～15:00			
平塚の古代を学ぶ会	2月15日(日)	10:00～15:00	科学教室	2人
裏打ちの会	2月18日(水)	10:00～15:00	科学教室	3人

1 1) 印刷物

・パンフレット：A5判 20頁 庁内印刷 800部 ・ポスター：A3判 庁内カラーコピー 400部

1 2) 質問掲示板

掲示数：8件（前回12件）

（古代生活実験室）

- ・土器と土笛づくり；“植物繊維と砂を混ぜ込む”について
 - ① 制作する上で、違いはありましたか？（こねやすい成形し易い等）
 - ② 完成した土笛の音の違いはありましたか？
 - ③ 何故、この2つのパターンで作ろうと思われたのですか？
 - ④ 実際に出土している遺物で、このように何かを混ぜ込んでいたという例はありますか？
- ・ワーキンググループによる掲示では、ドングリをオープンで焼いて食べていましたが、古代の縄文人は、どのようにしてドングリを食べていたのですか？また、ドングリなどの木の実は本当においしいのでしょうか？そこら辺に落ちているものでも食べられるのでしょうか？
- ・“土器をつくる”という体験はよく紹介されて見かけるが、その後、出来上がった土器に汁をいれたり実際に使ってみたらどうだったのかという報告レポート等を見たことがない水が漏れたりしないのか？口ざわりはどうか？たいきゅうせいはい？
- ・「どングリを食べると“どもくり”（どもりのことだと思ふ）になる」と親（昭和初期生まれ）が言っていたので 甘くておいしかったとは驚きました。 食べられるどングリと食べられないものがあるのですか!? 下処理はしたのですか!?

（天体観察会）

- ・様々な星や天体などを撮影されていておもしろかったです。撮影は自分の好きな星や天体を撮るのでしょうか？また、どんなカメラがおすすめですか？撮影場所は山奥の方がキレイに撮れるのでしょうか？
- ・昔はフィルムで撮影されていたと思いますが、ISO400 フィルムで何時間シャッターを開けていましたか？50 mmの場合と200 mmの場合のちがいはありますか？50 mmF2と200 mmF4.5。

（民俗探訪会）

- ・鮮魚店調査興味深かったです。子どもの頃（30年前くらい）、トラックで「魚屋ですよ～」と売りに来てる人がいましたが（広川、片岡方面）覚えていらっしゃる方いますか？
- また店内の「○○さん江」と書かれた額はこういったものなののでしょうか？

（石仏を調べる会）

- ・地図には#22が表示されておりますか、パネル（写真）には#22の掲示が見当たらないようですか？

13) 来場者アンケート結果：

○回収枚数 12枚（前回10枚）

○記入者の住所 平塚市内7人、平塚市外県内4人、県外関東地方1人、関東地方以外0人

○記入者の性別 男性6人、女性5人、未記入1人

○開催情報の入手（*複数回答有）

広報 ひらつか	博物館 HP	あなたと 博物館	新聞等	ポスター	口コミ	SNS	知らな かった	その他
3人	1人	3人	0人	2人	0人	0人	2人	1人

○満足度

興味深い	やや興味深い	ふつう	ややつまらない	つまらない
7人	5人	0人	0人	0人

○むずかしさ

とてもわかりやすい	わかりやすい	ふつう	ややむずかしい	とてもむずかしい
6人	5人	1人	0人	0人

○総合評価

とても良い	良い	ふつう	もう少し	良くない
8人	4人	0人	0人	0人

○年代

～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
1人	0人	0人	1人	4人	3人	2人	1人

<感想・ご意見>

- ・活発な活動に感心しました
- ・それぞれのワーキンググループの活動や着眼点がわかり、楽しく拝見しました。学芸員さんのご指導もある中で、市民(or 一般の方々)の活動が活かされていることがよくわかりました。
- ・当博物館はいろいろ活動が活発だと感心します。
- ・ありがとうございました。興味をもってWGの発表を観ることができました。
- ・いもむしの日記がおもしろかった。

- ・昔の生活や星、銀河見れて楽しかった
- ・5年生の観察(イモムシ)がとても立派だった！土器や銅鏡づくりの成果を初めて見てすごいと思った！
- ・お魚屋さんの調査が生活に役立てそうで有難いです
- ・民俗探訪会の魚屋さんめぐりが興味深かったです。
→古いものを調べる印象だったのですが、現在進行形のものも調査の対象なのですね。
- ・生きものズームの米原哲さんの飼育日記にも感動しました。
- ・全部のワーキンググループの展示、見て見たかったです。次回に期待します。発表会が雪で中止で残念でしたね。
- ・「民俗探訪会」の魚屋調査が興味深かった。個人商店が少なくなっていくので、貴重な記録だと思う。

令和8年度 平塚市 社会教育部予算

	(単位:千円) 令和8年度当初	(単位:千円) 令和7年度当初	(単位:千円) 増減額
一般会計 計	106,580,000	105,980,000	600,000
社会教育部(職員給与費除く) 計	3,001,275	1,849,173	1,152,102
社会教育費(職員給与費除く)	2,848,380	1,681,715	1,166,665
社会教育課・・・社会教育総務費	71,641	66,989	4,652
中央公民館・・・公民館費	1,099,513	607,254	492,259
中央図書館・・・図書館費	1,329,094	522,979	806,115
博物館・・・博物館費	80,850	92,600	-11,750
美術館・・・美術館費	267,282	391,893	-124,611
保健体育費(職員給与費除く)	152,895	167,458	-14,563
スポーツ課・・・保健体育総務費	47,014	46,948	66
・・・体育施設費	105,881	120,510	-14,629

令和8年度各事業の概要と予算

事業名	事業概要	予算 (単位：千円)
1 博物館特別展事業 【実計】	学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。開館50周年となる令和8年度は、年内開催の夏期、生物・地質・考古・民俗分野合同展と、秋期の考古分野を開館50周年記念展として実施、春期は民俗分野の特別展を開催します。	5,288
2 博物館教育普及活動 推進事業 【実計】	市民の生涯学習に役立てるため、体験学習、各種の講座、野外教育活動、プラネタリウム投影等を実施します。また、歴史分野の焼夷弾レプリカ製作、考古分野の「舌長鎧」再保存処理、生物分野の生物標本の製作等を進めます。	19,583
3 博物館協議会事業	博物館の運営全般にわたる諮問及び協議を行うため、博物館協議会を開催します。	173
4 博物館管理事業	博物館の安全かつ快適な施設環境を保持するため、施設の適切な維持管理を行います。	53,848
5 博物館情報システム事業	市民に地域への関心を深めてもらうため、博物館が集めた平塚及び相模川流域に関する情報を広くインターネットで発信します。	1,958
総計		80,850

博物館 令和8年度歳出予算一覧

博物館特別展事業

費目	主な支出内容	R7予算	R8予算	前年度差
報償費	展示協力者・資料提供者謝礼	575	625	50
旅費	調査・資料収集出張旅費	55	60	5
消耗品費	特別展示用消耗品	640	640	0
印刷製本費	図録等印刷代	3,266	3,213	-53
通信運搬費	資料等運搬費	0	0	0
委託料	特別展用看板・パネル等製作委託料	750	750	0
原材料費	展示等作成用原材料	0	0	0
事業費計		5,286	5,288	2

博物館教育普及活動推進事業

費目	主な支出内容	R7予算	R8予算	前年度差
報償費	展示協力者・資料提供者謝礼	2,375	2,667	292
旅費	調査・資料収集出張旅費	277	320	43
消耗品費	調査研究・展示・プラネ・OA機器消耗品等	1,081	1,082	1
印刷製本費	ポスター・出版物、写真DP等	1,154	1,153	-1
物品修繕料	展示機器・プラネタリウム機器等修繕料	2,611	2,351	-260
通信運搬費	寄贈資料等運搬費、アンケート調査郵送費	44	44	0
保険料	行事参加者傷害保険料	55	91	36
委託料	資料等保存処理委託等(金属器・D52・剥製等) ※M50焼夷弾レプリカ作成、鉄舌長銃保存処理	1,082	1,636	554
使用料賃借料	プラネタリウム設備、OA機器リース料等	17,623	9,755	-7,868
原材料費	展示等作成用原材料	56	56	0
備品購入費	研究活動用機材等	300	300	0
負担金	博物館協会等年会費等	88	128	40
事業費計		26,746	19,583	-7,163

博物館協議会事業

費目	主な支出内容	R7予算	R8予算	前年度差
報酬	博物館協議会委員報酬	173	173	0
事業費計		173	173	0

博物館管理事業

費目	主な支出内容	R7予算	R8予算	前年度差
報酬	会計年度任用職員	807	850	43
旅費	会計年度任用職員通勤手当	120	21	-99
消耗品費	管理用事務用品等	410	398	-12
光熱水費	電気・ガス・水道代等	9,278	9,540	262
物品修繕料	備品等修繕料	300	300	0
施設修繕料	設備等緊急支出用修繕料等	7,837	1,679	-6,158
通信運搬費	電話・FAX代等	218	194	-24
手数料	各種設備法定検査費用(水質・煤煙)	55	58	3
保険料	建物総合損害共済分担金	74	76	2
委託料	施設管理委託料、市史編さん資料等移送業務委託	37,423	38,120	697
使用料賃借料	施設リース料(城島プレハブ)、博物館WIFIシステム賃借料等	2,054	2,604	550
負担金、補助及び交付金	甲種防火管理者講習受講料	0	8	8
事業費計		58,576	53,848	-4,736

博物館情報システム事業

費目	主な支出内容	R7予算	R8予算	前年度差
報償費	情報機器入力作業協力者謝礼	168	192	24
消耗品費	WEBシステム用消耗品	36	36	0
委託料	レンタルサーバ運用費(30費目変更)	119	119	0
使用料賃借料	WEB関連機器リース料	1,496	1,611	115
事業費計		1,819	1,958	139

展 示

夏期特別展「コソコソ～博物館にあるいろんな骨のこと～」は、生物・地質・考古・民俗の4分野合同特別展で、資料を多角的な視点で紹介いたします。秋期特別展では、東京国立博物館が所蔵する真土大塚山古墳出土の「三角縁神獣鏡」など市外にある平塚市ゆかりの考古資料を借用し展示します。「第26回博物館文化祭」では、博物館で活動するワーキンググループの活動成果を展示発表します。春期特別展では、民俗分野の展示を行います。

1階寄贈品コーナーでは「ひらはく50年」関連展示など概ね1～2カ月おきに、各分野のテーマ展を開催します。2階情報コーナーでは特別展のダイジェスト展や博物館学芸員実習生による展示などを開催します。

特別展	春期特別展 「ひらはく50年 市民と歩む地域博物館」(総合)	2026 3月 20日 ~ 5月 17日
	夏期特別展 「コソコソ～博物館にあるいろんな骨のこと～」(生物・地質・考古・民俗合同)	7月 18日 ~ 9月 23日
	秋期特別展 「(仮)名品たちの里帰り-平塚ゆかりの考古資料-(考古)	10月 24日 ~ 12月 27日
	第26回博物館文化祭 -ワーキンググループ展示・活動報告会・実演-	2027 2月 上旬 ~ 2月 下旬
	春期特別展 「(仮)相模湾の漁業」(民俗)	3月 20日 ~ 5月 中旬
寄贈品 コーナー	全分野 新着資料展	2026 2月 28日 ~ 4月 5日
	50周年(早田)	4月 11日 ~ 5月 31日
	平塚空襲展	6月 13日 ~ 8月 16日
	民俗分野	8月 22日 ~ 9月 27日
	地質分野	10月 3日 ~ 11月 29日
	生物分野	12月 5日 ~ 1月 24日
	考古分野	2027 1月 30日 ~ 3月 28日
情報 コーナー	ミニ文化祭「平塚江南高校スーパーサイエンスハイスクール成果発表展」	3月 5日 ~ 4月 19日
	防災まちづくりの会	4月 25日 ~ 5月 31日
	ポスト特別展 「ひらはく50年 市民と歩む地域博物館」	6月 13日 ~ 8月 30日
	博物館実習生による実習展示	9月 11日 ~ 9月 29日
	平塚江南高校スーパーサイエンスハイスクール成果発表展2026	10月 3日 ~ 11月 15日
	天文分野	11月 21日 ~ 終期 未定

プラネタリウム

プラネタリウムの一般投影は、毎週土・日曜日と、春・夏・冬休み期間中の水・木曜日に、1日2回、70名の定員で実施します。一般投影では、開館50周年記念として、過去に投影したプログラムのリバイバル投影を実施します。特別投影等も実施する予定です。また、幼児団体投影・学習投影は予約制で水・木・金曜日の午前に実施します。

一般投影	一般向け投影 火星探査機が見た景色	2026 2月 7日 ~ 4月 5日	
	一般向け投影 思い出のハレー彗星	4月 11日 ~ 6月 14日	
	一般向け投影 開館50周年記念 あの番組をもう一度	6月 20日 ~ 7月 12日	
	一般向け投影 Vtuber星見まどかと旅する 水金地火木土天海	7月 18日 ~ 9月 27日	
	一般向け投影 天体望遠鏡を使いこなせ！～選び方・使い方のキホン～	10月 3日 ~ 11月 29日	
	一般向け投影 2027年の天文現象	12月 5日 ~ 1月 31日	
	一般向け投影 夜空を持ち帰ろう～初めての天体写真～	2月 6日 ~ 4月 4日	
	幼児向け投影 サンとムーン2 まいごのおほしさま	2026 1月 10日 ~ 4月 4日	
	幼児向け投影 お星さまだいすき！サンとムーン	4月 11日 ~ 5月 30日	
	幼児向け投影	6月 13日 ~ 8月 29日	
	幼児向け投影	9月 5日 ~ 11月 28日	
	幼児向け投影	12月 5日 ~ 2月 27日	
	幼児向け投影	3月 6日 ~ 5月 29日	
	特別投影	星空散歩 (全6回、偶数月、月初の土または日、)	
		「ひらはくオールスターズ」(3・または4回)	
星空タイムトラベル			

	星空音楽館（全4回）	
コンサート	プラネタリウム・コンサート	未定

各種普及行事

申込制 行事	考古	体験学習「昔の方法で火を起こそう」
		体験学習「カラフルな勾玉をつくろう」
	民俗	石仏めぐり
		体験学習「お飾りをつくろう」
	地質	地質学最新研究講座
		自然観察入門講座「相模川流域ジオツアー入門」(4回)
		体験学習「化石レプリカをつくろう」
	生物	自然教室（6回）
		体験学習「手羽先骨格標本をつくろう」
		キノコの観察会
	天文	星を見る会（10回）
		最新天文学講座（2回）
総合	こどもフェスタ	
	平塚学講座	

自由参加	歴史	郷土史入門講座（6回講座）
	考古	考古学入門講座（2or3回）
	民俗	ろばたばなし
		学芸員が語る「相模の家のくらし」
	地質	地球科学入門講座
		化石ペーパークラフトをつくろう
	天文	天文学入門講座「太陽系の惑星たち」全8回
		体験学習「不思議な板で万華鏡を作ろう」(回)

会員制 行事	考古	平塚の古代を学ぶ会	毎月1回水曜日
		古代生活実験室	毎月1回木曜日
		東国史跡踏査団	不定期実施
	歴史	古文書講読会	毎週金曜日
		裏打ちの会	毎月1回水曜日
		平塚の空襲と戦災を記録する会	毎月1回土曜日
		地域史研究ゼミ	毎月1回土曜日
	民俗	石仏を調べる会	毎月第二第四木曜日
		民俗探訪会	毎月第三水曜日
		祭りばやし研究会	毎月1回土曜日
		聞き書きの会	毎月第二火曜日
	地質	地球科学野外ゼミ（野外6回、室内5回）	毎月1回__土or日曜日
	生物	生き物ズームプロジェクト	毎月1回日曜日
	天文	天体観察会	毎月1～2回土・日曜日
		流星観察会	毎月1～2回土・日曜日
	総合	展示解説ボランティアの会	定例会、毎月1・3木曜日

その他の全館的事業

館内のくん蒸・消毒に伴う休館(予定)	2026 6月 2日 ~ 6月 12日
博物館実習	2026 9月 2日 ~ 9月 10日

協議事項：ワーキンググループ活動のあり方

開催中の開館50周年記念展の副題は「市民と歩む博物館」である。「市民と歩む」という言葉からはさまざまな解釈が成り立つが、ここでは「市民とともに調査や研究などに取り組み、活動の成果を市民に還元してきた博物館」といった意味で用いている。

当館の教育普及活動の特徴は、学芸員（主催者側）がレクチャーして参加者はそれを享受するだけの一方向のものだけではなく、参加者が主体的に関わり、調査や研究の担い手として館活動にかかわる、いわば双方向の関係を築き、さまざまな成果をあげてきたことにある。そうした活動が評価され、1980年代には地域博物館のモデル的存在として全国の博物館から注目された。

この活動方針は現在に至るまで基本的に変わっておらず、今も市民協働の活動に注力している。ただ社会や博物館全体の動きが変化し、かつては先進的と評価された当館の活動も今や当たり前になり、当館より魅力的で有意義な協働活動を行っている館園がいくつも存在する。こうした中、開館50周年を迎えるにあたり、ワーキンググループ活動の現状と課題を整理し、今後のあり方を検討する必要があると考え協議事項として取り上げる。

当館が取り組んできた市民協働活動は大きく3つに分けられる。1は「みんなで調べよう」などの公開調査で参加した市民との調査活動。2はかつて年間会員制行事やサークルと呼んだワーキンググループの活動。3は館の行事や組織には属していない個人や団体との連携である。このうち2のワーキンググループ活動を議題にする。

サークル・ワーキンググループ数の推移を10年ごとに確認すると、開館の1976年は古文書講読会のみ1団体、1986年は石仏を調べる会と天体観察会が加わり3団体、1996年は10団体、2006年は14団体、2016年は15団体と年々増加してきた。2024年度は16団体が活動し、総回数299回、延べ3,864人が参加した。普及行事全体のうち回数は75%、参加人数の46%をワーキンググループが占める。

活動の実態はどうであろうか。長年にわたり調査⇔収集⇔研究⇔出版⇔展示・教育普及と、会員が主体的に活動し博物館の各機能を循環させ多くの成果を上げてきた会もあれば、その成果が形としてあまり現れてこない会も見受けられる。講座や体験学習、観察会など一過性の行事への参加者と異なり、年間会員制のワーキンググループはその活動時に駐車場料金が減免され、博物館の協力者としての待遇を得ている。また継続的に会へ参加することで知識や技術の継承が図られ、人材が育成されていると考えられる。したがってワーキンググループはその活動成果を市民に還元することが求められ、そのことを軽視すれば固定会員で毎回実施するただの行事に過ぎなくなってしまう。

協議に先立ち、各担当者が会の現状と課題を整理した。課題として会員の高齢化や固定化、運営側の業務負担などが挙げられている。

本日は、会員の新陳代謝の回り方、活動を充実させ成果を上げる方策、学芸員の業務負担などについてご協議いただき、今後の活動の指針としていきたい。

R7年度ワーキンググループ活動の現状と課題

*実施回数と参加人数はR8年1月末時点の実績 *展示解説ボランティアについて実施回数は定例会のみを集計、参加人数は当番日を含めて集計

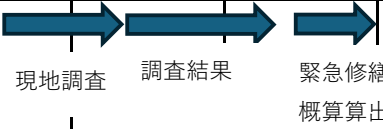








分野	名称	会の活動目標	参加者のメリット	館側のメリット	会員制行事の必要性	現状の課題と今後の方向性	回数	人数
考古	平塚の古代を学ぶ会	館蔵未報告発掘調査資料の再整理及び報告書等の刊行	本物の資料を観察することで、文献だけでは得られない気づき・視点を得られる	資料の整理を効率よく行え、今後の研究・活用の基礎になる		膨大な資料数があり、完遂に数十年かかる見込みだが、新規参加者が少なく、活動の継承に課題がある	10	122
	古代生活実験室	実験考古学を通じた資料の研究	自身が興味・関心を持った事柄について深く追求できる	得られた知見を一般向けのイベントに活用できる		会の中心人物の高齢化が著しい	10	119
	東国史跡踏査団	史跡・伝承地などへ実踏することで歴史を体感する	文献には記載のない周囲の景観や地形を実際に体感できる	記録として写真を撮影でき、展示や出版物等への利活用ができる		行くところがなくなってきた 外に行ける気候ではなくなってきた	6	105
歴史	古文書講読会	館蔵古文書の講読と史料集の刊行。	古文書に親しんで楽しめる。古文書解読能力を獲得できる。古文書から地域の歴史を学ぶことができる。同好の仲間ができる。	地域の歴史を知る一次資料である古文書に対する市民への関心と知識の普及を図ることができる。館に依頼された古文書類の解読に協力してもらえる。史料集の刊行。		若い世代の参加。	37	641
	裏打ちの会	館蔵古文書の裏打ち作業	裏打ち作業を楽しめる。同好の仲間ができる。	学芸員一人ではできない量の裏打ち作業ができ、資料の保管と活用をはかることができる。		近年参加希望者が現れるようになってきたが、作業スペースや道具の数などの物理的な問題で新規に参加してもらえない。	10	84
	平塚の空襲と戦災を記録する会	平塚の空襲と戦災についての調査・記録。炎の証言・通史編の刊行。平塚空襲の記録・記憶の継承。	地域の空襲・戦災の実態を学び知ることができる。自らや自らの世代が体験した空襲や戦災の記録を後世に残すことができる。	学芸員一人ではできない平塚空襲に関する調査・記録・刊行物の編集・普及事業を行うことができる。		会員・体験者の高齢化による証言者の確保の困難化、証言集・通史編刊行の遅れ。証言者がいなくなった後の活動の在り方。	16	107
	地域史研究ゼミ	地域史料の精読による地域史の共同研究	古文書の解読能力をさらに高めることができる。古文書から地域の歴史を学ぶことができる。同好の仲間ができる。	地域史上の新たな知見を得られ、その知見を展示や講演会などの普及事業・論文発表などとして活用することができる。		参加者が固定化して新たな会員がなかなか入ってこない。ただ年間の報告回数12回は決まっているので、会員数が増えたとしても入ってきたとしても報告できない会員が増えるだけとなる。	10	64
民俗	石仏を調べる会	石造物造立の実態を調べ、庶民信仰の様相や歴史を学ぶこと。	石造物への信仰を知ることで、地域への理解が深まる。会員によって興味関心が異なるため、意見交換を通して石造物への理解が深まる。同好の仲間ができる。	学芸員一人ではできない平塚市内の石造物調査・調査データ管理・刊行物の編集・普及事業を行うことができる。	継続的な活動をする中で、石造物の調査方法の継承、調査データの蓄積、刊行物の発行が可能となる。	会員の高齢化と会員数の減少。新規会員の獲得推進。データ管理の属人化。	18	160
	民俗探訪会	平塚市内および県内の伝統行事・地域の暮らしなどについて、現地の探訪や会員それぞれの調査によって学ぶこと。	伝統行事や暮らしの様子を実際に見たり、当事者からお話を伺うことができる。	普及行事への協力。市内の広範囲かつ同時に行っている行事などの調査を行うことができる。博物館への情報提供。	年によってテーマが変わるという点では、長期の行事である必要はないかもしれない。	各年のテーマごとに興味を持つ人が入会するため、会員それぞれの興味関心が異なる。そのため、積極的に活動に参加する人とそうでない人の差が生まれる。	10	112
	祭りばやし研究会	市内、県内外の祭りばやしを聞き比べたり、実際に市内の祭りばやしを叩くことで、実践的に祭りばやしへの理解を深めること。	祭りばやしに叩けるようになる。市内外の祭りばやしへの理解が深まる。同好の仲間ができる。	普及行事への協力。地域の太鼓保存会などとのつながりができる。	継続的な活動によって、多くの曲の習得や祭りばやしへの理解が深まる。	参加者の固定化。現会員で叩ける曲が増えたため、新入会員は一度に覚える曲が多く、入会にハードルが高くなる可能性がある。	20	220
	聞き書きの会	地域におけるかつての暮らしの有様を記録に残し、次世代へ継承すること。	平塚のかつての暮らしの様子を知ることで、地域への理解が深まる。	学芸員一人ではできない調査・刊行物の編集作業を行うことができる。会員それぞれの興味関心に基づいて話を聞くため、学芸員一人の興味に偏らない記録を残すことができる。	継続的な活動によって、データの蓄積や刊行物の発行が可能となる。	参加者の固定化。昔の話を聞きたいという人は多いが、それを活字化してまとめるという作業にプレッシャーを感じる人もいるため、新入会員が定着しない。会員によって話者を探せる人とそうでない人がいる。	12	70
生物	生き物ズームプロジェクト	観察は眼が多い方が発見が多い。複数人で観察することで視点を広げることが目的としている。年間を通して活動することで、参加者同士の会話や交流が生まれ、さらに視野が深まり、受け身ではなく、自ら学び発信することを目標としている。	他の参加者と交流することで、別の視点を得ることができる。	地域の自然情報の収集につながる。		現在小学生（4～6年）は保護者同伴での参加としているが、学区外での活動に一人で参加してよいのだろうか。野外の活動で怪我だけでなく様々な安全面でのリスクがあると考え保護者同伴をお願いしているが、保護者の負担が大きいと感じる。会の活動は元々中学生以上を対象としており、小学生からの参加希望もあり、会員と相談の上、4年生以上を受け入れることにした経緯がある。また、7～9月の高温下での野外活動に主催者側として高いリスクを感じる。	10	60
地質	地球科学野外ゼミ	相模川流域と湘南の地質について調査研究および資料収集を行い、大地の成り立ちについて明らかにすることを目指す。	野外や室内での地質の観察や学習を通して、地質学に関する専門知識を習得できる。地質学を通して、学術的専門性や科学的思考の重要性を学べる。	地域の地質に関する資料や情報を広範囲で収集できる。調査研究を通じ、地域の地質に関する新たな知見が得られることが期待される。	会員が継続的に知識を習得していくことで専門性が深まり、新たな発見や資料の収集につながりやすくなる。	会員数が多く、年齢層やレベルの差が広がりつつあるため、均等なサービスの提供が課題となっている。野外観察を行う点で安全面での懸念もある。人数の割には自主性の強い会員は少ない。調査研究という側面では、現状の人数や会員の専門性では十分な学術的記載のレベルには至らず、予算の問題から科学分析などもできないため、研究としての発展性が狭い。	10	436
天文	天体観察会	天体観察に関する基礎知識を習得しつつ、「星を見る会」の補助や天体写真の撮影を行う。	他の会員との情報交換により、写真撮影技術や望遠鏡などの機材の情報交換を行える。	「星を見る会」の補助として活躍してもらえる。学芸員だけでは撮影できない天文現象や天体写真を収集することができる。	望遠鏡の操作技術などは長年の経験が必要。また星空は四季で移り変わるため、継続した観察が必要。	会員数に対し機材不足などがあり全員がまんべんなく望遠鏡などを操作することが難しい。また会員の興味の幅が広いため、広く対応することが困難。	10	257
	天体観察会天文学分科会	天文学、特にアストロバイオロジーについて教科書を輪講しつつ学習する。	アストロバイオロジーについて深く学習できる。	天文学の深い知識を持った人間を増やすことができる。		分野によっては学芸員の知識レベルでは対応できないことがある。	9	134
	天体観察会太陽分科会	太陽観測に関する知識を習得する。	太陽を観測している方との交流や観測技術の勉強ができる。	鷹さんが続けてきた太陽の黒点観測を継続できる（本当は館でも観測を継続したいが中断中）。		新規参加者を受け入れる体制はなく、会員の固定化が進んでいるが、鷹さんは継続を希望されていると思われる。	10	112
	天体観察会プラネタリウム分科会	生解説によるプラネタリウム投影を実施する。	複雑な機材を操作して星空を動かす技術的な楽しさがあり、投影を通じて自分なりの宇宙観を観客に共有できる。	文化祭での投影イベントを実施できる。		新規参加者の増加に伴い、投影を希望される方が増えている。練習時間を短縮して対応にあたっているが、依然として業務負担が大きく、限界に近い状況である。	1（個別練習は30回以上）	10
	流星観察会	流星と衝突閃光の同時多点ビデオ観測を継続する。	流星物理の知識から、観測機材の操作、高度な解析技術まで、一連のスキルを体系的に学べる。	流星の知見獲得し、展示・プラネ・出版物への活用ができる。		新規参加者は継続的に増えているものの、運営側のリソース不足により年間の回数を減らした。そのため、十分なフォロー体制を築けていないのが現状である。今後1回に戻したい。	5	96
総合	展示解説ボランティアの会	一般来館者・小・中学校などの団体への展示解説活動	各専門分野の知識の取得	一般来館者への解説を展ボラが担ってくれることで、他の業務に専念できる。	必要	会員の高齢化と会員数の減少。新規会員の獲得推進。	13	195

劣化度等調査業務委託について

1. 劣化度等調査とは

建物や設備の劣化状況を把握するため、躯体のコンクリート、鉄筋や配管などの調査の他、アスベスト含有などの現地調査のこと

2. スケジュール(当初)

令和 8 年										
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
現状把握と劣化状況調査										
機能性向上・改善策等の提案										
修繕・更新・改修の必要性及び実現性の判断への支援										
概算事業費算出										
基本計画策定支援										
事業方式検討支援										
事業スケジュール作成										
庁内予定										

※1 LCCとは、ライフサイクルコストのことで、計画・設計・施工から、その建物の維持管理、最終的な解体・廃棄までに要する費用のこと

※2 サウンディング調査とは、地方自治体が所有する土地や施設の活用法について、民間事業者から広く意見や提案を募り、対話を通じて市場性や事業化の可能性を探る調査

平塚市博物館開館50周年記念式典企画概要

昭和51（1976）年5月1日に開館した平塚市博物館は、地域の総合博物館として市民とともに歩み令和8（2026）年に50年を迎える。そこで、開館記念日に関係者へ50年の感謝を伝えるとともに博物館が果たす役割の再確認を目的に記念式典を開催する。

<式典概要>

日 時：令和8年5月1日（金）午後2時～3時

場 所：平塚市博物館エントランス及び講堂、特別展示室

内 容：くす玉割り、来賓紹介、来賓あいさつ、「博物館50年の歩み」スライドショー上映、祭りばやし研究会演奏、記念品配布

主催者：市長、教育長、社会教育部長、館長以下職員（16人）

来 賓：市議会正副議長・教育民生常任委員会委員長（3名）、小中学校長会長（2名）、博物館協議会委員（6名）

招待者：市議会議員、教育委員、前博物館協議会委員、ワーキンググループ会員等博物館関係者

合 計：約50名

その他：記者クラブに取材依頼する。来賓・招待者向けの式典で、一般への案内はしない。

<タイムスケジュール>

14：00 開会、館長挨拶、くす玉割り（エントランスホール）、

14：05 市長挨拶（エントランスホール）

14：10 来賓紹介（エントランスホール）

14：15 議長挨拶、写真撮影（エントランスホール）

14：20 教育長挨拶（講堂）

14：25 「博物館50年の歩み」スライドショー（講堂）

14：45 祭りばやし研究会による囃子太鼓の演奏（講堂 or 屋外）

14：55 社会教育部長挨拶

15：00 閉会

15：05～特別展示案内（希望者のみ）

*出席者の受付は午後1時30分～1時50分に行う

<参考：GWの関連行事>

・5/2（土）：「平塚市博物館50年の歩み」 講師：浜野館長

14：00～16：00 博物館講堂 定員80名 自由参加

・5/3（日）：「地域博物館の役割とこれから」

講師： 浜田弘明氏（桜美林大学リベラルアーツ学群教授）

14：00～16：00 博物館講堂 定員80名 自由参加

以 上